

「先輩と語る会」を行いました

教育実習生受け入れ期間の6月6日（月）の授業後、視聴覚室を会場に実施しました。

教育実習生で本校の卒業生のか納先生と寺澤先生のお二人に、あらかじめ用意された生徒からの質問に答える形で、語っていただきました。

- ◎ 受験は、おおまかでよいので、苦手科目の克服を含め、どれだけの勉強をしなければならぬかを洗い出して、計画を立てることが大事である。
- ◎ 指定校推薦で私立大学に合格する道もあるが、1年生の時から強い信念で国公立大学を目指して部活動と両立させながらコツコツ勉強していたことがよかった。
- ◎ “受験は団体戦”と自覚して、部活やクラスの友人と一緒に励まし合って努力した。
- ◎ 受験生は心が不安定になりがちだが、そんなときは、先生方に相談したり、話を聴いてもらったり、時には、自分が大学生になったことを想像してみると、勉強のモチベーションを高めることができる。
- ◎ 国公立大学は私立大学と比べて、学費が安く、より少人数教育が受けられ、また、地元地域の企業や住民から期待されていて、企業・地域と強いつながりが感じられ、連携した研究・活動が行われている。
- ◎ 地方の国公立大学へは、けっこう全国から入学して来ていて、大学卒業後、また、自分の地元の企業や行政機関などに就職する先輩が多い。

以上のほか、大学生活について、バイト、生活費、家賃などについて、具体的に教えていただきました。

会の終了後も、個別に質問する生徒も出て、とても有意義な時間となりました。

